

## 畜舎消毒の取組のご紹介

家畜改良センター熊本牧場では、防疫対策の一環として、月1回程度の畜舎消毒を行っています。飼養環境を清潔に保つことで、牛が快適に過ごすことができ、疾病予防にもなり、ひいては発育も良くなります。今回は当社における畜舎の消毒について紹介したいと思います。



清潔な牛房内の牛



汚れた飼養環境の牛（海外の事例）

清掃・消毒作業により牛房が清潔であると、牛の異常の早期発見も可能となります。上の2枚の写真を見比べると、左の写真では、便の異常やケガなどを発見しやすい状態になっていることがお分かりになると思います。一方、右の写真では、牛体の汚れが疾病によるものかの判断がしづらく、異常の発見の遅れや、見逃す可能性が考えられます。



除糞作業の様子



消毒の様子

作業としましては、消毒薬は糞等の堆積物により効果が低減することから、重機で糞等を取り除き清掃した後に消毒薬を散布します。消毒薬は、時期等によって種類を替えています。ウイルスを原因とする疾病リスクが高まる冬場や分娩開始前には、広範囲の病原体に有効なアルデヒド系等の消毒薬を、また、コクシジウム症が多発しやすい高温・多湿の時期はコクシジウムに有効なオルソ剤を

使用しています。オルソ剤はハエの幼虫に対しても効果があるので、ハエの発生を抑えたい場合にも使用します。稀に、消毒を行っていても牛の下痢や皮膚病等が続くことがあります。その際には、原因を調べたうえで、逆性石鹼など原因に有効な消毒薬を選択することもあります。

なお、消毒薬使用時には、作業者の安全を確保するための必要な保護具の着用を行うとともに、環境負荷をかけない為に適正な使用量を遵守しております。

表.畜舎消毒の消毒薬の選択

時期・目安	使用する消毒薬の例
・ウイルスを原因とする疾病リスクが高まる冬場 ・分娩開始前	・グルタルアルデヒド（例：グルタプラス） ・塩素剤（例：スミクロール）
・コクシジウム症が多い高温・多湿の時期 ・ハエが多いとき	オルソ剤（例：タナベゾール）
使用薬剤の効果がみられないとき	逆性石鹼＋水酸化カルシウム（アルカリ剤。逆性石鹼に加えることで効果が高まる）添加 等

ご紹介しました取り組みにより、異常発生時の迅速な対応が可能になることで、疾病の発生頻度や症状の軽減につながっており、引き続き、日々の牛の観察とともに努力してまいりたいと思います。

農家の皆様におかれましては、それぞれの農場に適した消毒の方法を検討する際に参考にさせていただければ幸いです。



綺麗になった牛房

(以上)